

# 埼玉アートシアター通信

2017 3月 - 4月

SAITAMA  
ARTS THEATER  
PRESS  
VOL.68

蜷川幸雄一周忌追悼公演  
『NINAGAWA・マクベス』

GEKISHA NINAGAWA STUDIO  
『2017・待つ』

マームとジプシー

コンドルズ埼玉公演2017新作  
『17's MAP』

2017年度 音楽公演ラインナップ

山崎伸子

松竹大歌舞伎

蜷川幸雄一周忌追悼公演  
さいたまゴールド・シアター × さいたまネクスト・シアター  
『からす鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』



2017 3月-4月

SAITAMA  
ARTS THEATER  
PRESS  
VOL.68

CONTENTS

- 03 〈PLAY〉 **あの興奮、再び**  
蜷川幸雄一周忌追悼公演  
さいたまゴールド・シアター × さいたまネクスト・シアター  
『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』
- 06 〈PLAY〉 蜷川がつくり出した一大絵巻、再び!  
蜷川幸雄一周忌追悼公演『NINAGAWA・マクベス』
- 07 〈PLAY〉 決着をつけるための「待つ」  
GEKISHA NINAGAWA STUDIO『2017・待つ』  
大石継太 Interview
- 08 〈PLAY〉 恐怖と暴力が支配する世界に対抗する「繭」  
10作品を携えての大規模ツアー、埼玉からスタート  
マームとジブシー『10th Anniversary Tour』
- 10 〈DANCE〉 2016年度「MEET THE DANCE ～アーティストが学校にやってくる!」
- 11 〈DANCE〉 はなさかじいさんニューヨークへ行く
- 12 〈DANCE〉 コンドルズ埼玉公演2017新作『17's MAP』
- 14 〈MUSIC〉 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール & 埼玉会館  
2017年度 音楽公演 注目のラインナップ紹介
- 16 〈MUSIC〉 彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画「次代へ伝えたい名曲」第10回  
山崎伸子 Interview  
芸術は、一生かけてもできないものだからすばらしい
- 18 〈KABUKI〉 継がれゆく成駒屋の大名跡  
松竹大歌舞伎  
中村橋之助改め八代目中村芝翫 襲名披露  
中村国生改め四代目中村橋之助 襲名披露  
中村宗生改め三代目中村福之助 襲名披露
- 19 REVIEW
- 20 イベントカレンダー / チケットインフォメーション / 彩の国シネマスタジオ
- 23 INFORMATION
- 24 〈COLUMN〉 岩松 了 連載「どっちつかずの天使」

[表紙] 彩の国さいたま芸術劇場 Photo◎小川重雄 編集◎川添史子、榎原律子 デザイン◎柳沼博雅

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 Published on 15.March 2017 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation  
※掲載情報は、2017年2月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。



# あの興奮、再び

蜷川幸雄一周忌追悼公演  
さいたまゴールド・シアター×さいたまネクスト・シアター

# 鴉よ、おれたちは弾丸をこめる

パリ、香港でも上演されたさいたまゴールド・シアターの代表作が再演される。そもそもこの作品は、どういった時代を反映し、生まれた舞台だったのか——。初演を知る演劇評論家・高橋豊が、あらためて〈鴉〉の熱狂を振り返る。

文◎高橋豊 (演劇評論家) Photo◎宮川舞子

彩の国さいたまゴールド・シアターの代表作『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』が、3年ぶりに彩の国さいたま芸術劇場で上演される。同劇場の芸術監督を務めゴールド・シアターの生みの親の演出家、蜷川幸雄の一周忌追悼公演である。蜷川の盟友・清水邦夫の作品で、演出・蜷川、演出補・井上尊晶。

少し時代を遡る。1960年代後半、東京・新宿を中心に若者たちの「異議申し立て」の動きはピークに達していた。政治面だけでなく文化面でも、従来のものを厳しく否定して、劇団を立ち上げ創作活動を行った。当時マスコミは「アンダーグラウンド演劇」、略して「アングラ劇」と異端視したけれど、実験性、独創性に富み、現代演劇の構図を変えていく。

劇団青俳の俳優だった蜷川は、演出家に転身することを図り、賛同する劇団員たちと脱退、劇団現代人劇場を立ち上げた。1969年、アートシアター新宿文化で清水作『真情あふるる軽薄さ』を上演、演出家として鮮烈なデビューを遂げた。映画が終わった午後9時半からの開演を待って長い行列を作った観客がようやく着席すると、客席の通路から舞台上まで蛇行した行列が出来ていて、規制する整理員との間でいさかが始まるのだ。観客の中には全共闘運動や新左翼の若者たちもいたから、ジグザグデモが始まり論争が起きた。

現代人劇場の舞台美術が私たち観客には楽しみだった。映画館の狭い舞台というハ

ンディを見事に裏切って、1970年の『想い出の日本一萬年』（清水作）では客席まで溢れんばかりの卒塔婆の山が築かれた。1971年に清水作・蜷川演出の3本目の新作『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』が初演される。激しいメッセージがこめられた「裁判劇」で「闘争劇」だった。手製爆弾を投げたとして青年2人が法廷で裁かれている。そこに孫を救おうと老女たちが爆弾を手に乱入し、占拠。警察機動隊に裁判所を包囲された中で、老女たちは逆に検事や判事の「罪」を裁き出した。孫の青年たちも「期待にこたえなかった」として容赦なく処刑してしまう。

蜷川の妻で女優の真山知子、客演の緑魔子らを除き、老女の多くは俳優が扮した。終幕、機動隊からの催涙弾と銃弾にさらされながら、老女たちは若者へ変身し、一斉射撃を受ける。蜷川は、この一瞬の変身のため「引き抜き」という歌舞伎の衣裳の仕掛けを使い、バックにはエルトン・ジョンの音楽を流した。

当時、成田空港建設に反対する「三里塚闘争」は激しさを増し、東京都内で爆破事件もいくつか発生していた。その文脈の中で、観客は老女たちをとらえていたように思う。

60年代後半から70年代前半の「政治の季節」は急速にしぼんでいく。現代人劇場は『鴉よ〜』公演後、解散してしまう。

1972年、蜷川は清水らと劇結社「櫻社」を結成するものの、1973年の公演で新宿撤退を宣言。1974年、蜷川が東京・日生劇場で『ロミオとジュリエット』を演出したことを契機に、櫻社は解散した。『商業演劇』に対する拒否反応がこれほど強いとは驚きだが、櫻社が反体制に燃えるメンバーが多かったためだろうか。

『女王メディア』『NINAGAWA・マクベス』など演出作品はギリシャ、英国の本国で上演されて高く評価され、『近松心中物語』などのヒット作で大劇場を満員にした蜷川の軌跡はもう皆さんがよくご存知だろう。

蜷川の強みは、大劇場・中劇場で活躍しながら、小劇場でも果敢な試みを続け、新たな才能を育成したことだ。

まず挙げられるのが、2006年、芸術監督として創設した高齢者演劇集団「さいたまゴールド・シアター」（現在・平均年齢77歳）である。蜷川は1,200人を超える応募者とすべて面会し48人で発足。これまで3度の中間発表と6回の本公演を実施している。

中でも、2006年の『鴉よ〜』の大稽古場での試演は感動的で、高齢者が演じることで、これだけ深みが出るのかと感じ入った。冒頭、老人たちは保育器とも棺とも思える水槽の中で眠っている。1971年の現代人劇場初演の時のような若い俳優によるデフォルメさ

れた老女像は出てこない。1971年初演版を観た人は、例外なく落涙したようだ。あの激動の「政治の季節」を振り返ってしまうからか。『鴉よ〜』は2013年、初の海外公演（パリ）に挑み、翌2014年には香港、パリの海外公演のほか、国内を巡演した。

このパリ版で、蜷川は新たに手を入れている。「1971年の初演、若者に寄り添いすぎて、表現に馴れ合いがあったのではないかと、と恥ずかしく思える箇所がある。清

水が病氣療養中のため、僕がセリフを削り、あの時代をきちんと総括しておきたかった」。本編の老女たちは食事をしたり、寝たり、生活感のある営為を重ねながら法廷を占拠していく。説得力ある展開だ。

今回もさいたまネクスト・シアター（09年発足）の若者たちがいい助演をしてくれるだろう。



チケット発売中

蜷川幸雄一周忌追悼公演  
さいたまゴールド・シアター×さいたまネクスト・シアター  
『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』

4.14(金)19:00、15(土)・16(日)14:00

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【作】清水邦夫 【演出】蜷川幸雄 【演出補】井上尊晶  
【出演】さいたまゴールド・シアター、さいたまネクスト・シアター  
チケット(税込) 全席指定 一般 4,000円/メンバーズ 3,600円

# 蜷川幸雄一周忌追悼公演 さいたまゴールド・シアター×さいたまネクスト・シアター 鴉よ、 おれたちは弾丸をこめる



# 蜷川がつくり出した 一大絵巻、再び!

蜷川幸雄一周忌追悼公演  
『NINAGAWA・マクベス』

文●川添史子

世界的にも高い評価を得た〈仏壇マクベス〉が、この夏、埼玉でよみがえる! 蜷川幸雄がシェイクスピアの傑作『マクベス』を、セリフや人物設定は変えず、時代を日本の安土桃山時代に移した同作。舞台全体は巨大な仏壇で出来ており、オープニングで二人の老婆が開いた仏壇の扉の奥に、マクベスのドラマチックな世界が展開されていく。マクベス、バンクォー、ダンカン王、マクダフなど、戦場を駆け抜ける登場人物たちは鎧兜に身を包み、日本刀で見せる殺陣は大迫力。豪華絢爛な着物、女方で演じる三人の魔女、斜幕越しに浮かび上がる満開の桜、仏像が並ぶ寺……日本の様式美を駆使して立ち上げた舞台は、西洋コンプレックスのシェイクスピアではなく〈日本人がつくり、日本人が観るシェイクスピア〉として一つのアンサーを見せつけた。

大きな話題となった1980年の初演以来、数回にわたって国内外で上演されたが、2015年には17年ぶりに上演。今回はこの2015年版同様、マクベスに市村正親、マクベス夫人に田中裕子を迎える。ちなみに市村と田中は、2003年の蜷川演出『ベリクリーズ』でも共演している。バンクォーに辻萬長、マクダフに大石継太、ダンカン王に瑠川哲朗(2015年も同役で出演)と、新たなメンバーにも期待が高まる。

今回は、香港、イギリス、シンガポールにも渡るという『NINAGAWA・マクベス』。蜷川がつくり上げた一大絵巻を、再び目にできる貴重な機会を逃すまじ!

発売日 一般 4.22(土) メンバーズ 4.15(土)

蜷川幸雄一周忌追悼公演  
『NINAGAWA・マクベス』

7.13(木)~29(土) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[演出] 蜷川幸雄 [作] W.シェイクスピア [翻訳] 小田島雄志  
[出演] 市村正親、田中裕子、辻 萬長、大石継太、瑠川哲朗 ほか

チケット(税込) 一般 S席12,000円 A席9,000円  
U-25(公演時25歳以下対象・前売のみ取扱・当日引換券・要証明書)6,000円

※本公演はメンバーズ料金の設定はございません。  
※メンバーズには別途ご案内するプレオーダー(抽選)があります。 ※メンバーズWEB先行4月14日(金)10:00~

7.13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
13:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
18:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

〈ワールド・ツアー〉

- 香港公演  
Grand Theatre, Hong Kong Cultural Centre  
6月23日(金)~25日(日)
- 日本公演  
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール(埼玉)  
鳥栖市民文化会館 大ホール(佐賀) 8月5日(土)・6日(日)
- イギリス公演  
Barbican Theatre(ロンドン) 10月5日(木)~8日(日)  
Theatre Royal Plymouth(プリマス) 10月13日(金)・14日(土)
- シンガポール公演予定

公式ツイッター@ninagawamacbeth

GEKISHA NINAGAWA STUDIO  
『2017・待つ』

僕たちの再戦

GEKISHA NINAGAWA STUDIO公演

2017・待つ

2017.4/27(木)-30(日) 5/11(木)-14(日)

彩の国さいたま芸術劇場NINAGAWA STUDIO(大稽古場)



決着をつけるための  
『待つ』

大石継太  
Interview

取材・文●川添史子



4月、かつて「GEKISHA NINAGAWA STUDIO」に集っていた俳優たちが新作を発表する。“僕たちの再戦”という言葉と、蜷川幸雄が静かにこちらを見つめるイラストが目飛び込む公演チラシからは、彼らの決意のほどがうかがえるだろう。発起人の大石継太に『待つ』シリーズについて、再び立ち上がったワケを聞く。

「スタジオでは、俳優の訓練として普段から蜷川さんにエチュードを見せていました。ある日、蜷川さんがエチュードをもとにしたスタジオ公演『待つ』シリーズを発案されて。自分でやりたい作品を見つけ、自分で共演者も説得しないといけない。それで作品が認められてやっと公演に出られる。本当に戦いました。『俺、こんな気持ちでやってるんじゃないよ!』なんて、メンバー同士でしょっちゅうケンカもしていました」

同シリーズは、1991年から内容を変えながら7回上演。最後に上演された2003年から14年が経ち、再び挑むと決意したのは、蜷川の通夜の夜だった。

「スタジオ出身の仲間が集まって、蜷川さんの話をいっぱいしました。『ケイタが印象に残っている作品は?』と聞かれ、その時は『大きな役(与兵衛)をもらってびっくりした「近松心中物語」かなあ』なんて答えたんですけど、家に帰ってふと『一番戦ったのはスタジオ公演だな』と思ったんです。中でも『待つ』は特別だった。『蜷川さんは亡くなったから、それぞれやっつけていこう』だけじゃ心の整理がつかないというか……何か決着をつけたいと思った」

今回は数グループに分かれ、各々つくったものをお互いに見せ合い、一つにまとめていくという。「チラシに刷ってしまった蜷川さんを見るたびにプレッシャーです。鍛えられたはずの瞬発力を信じます」と表情が引き締まる。

さて、そもそも〈待つ〉とは?

「蜷川さんがよく『若い奴らは能動的に動かず、待ってばかりだ!』とってたんですよね。若者へのイメージをタイトルにしたんだと思います」

かつて蜷川に怒鳴られていた若者たちは、いまやベテラン俳優に。

「舞台経験を重ねて来たおじさん役者たちが今、どう芝居と向き合うか。その格闘を見ていただければと思います」



(左から)大石継太、鈴木真理

堀 文明、塚本幸男

『1991・待つ』

チケット発売中

GEKISHA NINAGAWA STUDIO  
『2017・待つ』

4.27(木)~30(日) / 5.11(木)~14(日)

彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO(大稽古場)

[出演] 飯田邦博、大石継太、岡田 正、新川将人、清家栄一、妹尾正文、塚本幸男、野辺雷三、堀 文明 ほか

[主催] GEKISHA NINAGAWA STUDIO [提携] 彩の国さいたま芸術劇場

チケット(税込) 全席自由(整理番号付) 5,000円

※開場は開演の30分前 ※開場時間よりチケットに記載されている整理番号順のご入場となります。  
※開場時間を過ぎますと整理番号は無効となります。 ※仮設客席での上演のため、椅子の形状が通常と異なります。

4.27	28	29	30	5.11	12	13	14
木	金	土	日	木	金	土	日
14:00	●	●	●	14:00	●	●	●
19:00	●	●	●	19:00	●	●	●



PLAY

LIVING ROOM

① ②

# 恐怖と暴力が支配する世界に対抗する「繭」

## 10作品を携えての大規模ツアー、埼玉からスタート マームとジプシー『10th Anniversary Tour』

瑞々しい感性と、切実で詩的なセリフ——  
彩の国さいたま芸術劇場で、数々のピース（作品）を発表してきたマームとジプシー。  
2007年、藤田貴大が立ち上げた演劇集団が10周年を迎える今年、大規模ツアーを敢行する。  
藤田との交流もある高橋源一郎に、藤田作品の魅力を寄稿してもらった。

文●高橋源一郎（作家）

### cocoon（繭）

藤田貴大さんと話をする機会ができるようになった頃、驚いたことがある（いくつもあるが）。それは、藤田さんのお母さんのことだ。正確には覚えていないのだが、おおむね、以下の通りだったように思う。

藤田さんのお母さんは、息子である藤田さんにいくつもの特殊な、しかし、きわめて優れた教育をほどこした。それは、たとえば、本を朗読する、ということだ。それぐらいなら、どんな母親だってやってみせるだろう。わたしだって、自分の子どもたちにたくさん本（というか絵本）を朗読してきた。しかし、藤田さんの母親がやったことは、それとちがう。小説でもなんでも朗読するのである。藤田さんは、大学に入学するくらいまで、本はみんなお母さんの朗読で「聞いた」そうだ。確かに、最後に朗読してもらったのが、安部公房の『砂の女』だったと思ったのだが、それにしても、すごい。緊迫感に満ち、性をテーマにした、現代文学を代表する作品を息子に朗読する母親。って、その行為、いや姿自体が、一つの作品のようにも思える。

その話を聞いて、わたしは、藤田さん、あるいは彼の作品の秘密の一端に触れたように思った。藤田さんの作品には、他のどんな作家の劇にも見ることができない特徴がある。けれども、それをことばにすることは難しい。

福島の高校生たちを登場人物とする、数年前に起きた大きな災害の「あの日」をテーマにした音楽付きの劇『タイムライン』の製作現場を見に行ったことがある。たくさん子どもたちがいた。その場所で、藤田さんは、彼らのしゃべることばに

耳をかたむけ、「あの日」の記憶をたどりながら、少しずつ、劇を作っていた。机に向かい紙の上にドラマを書きつけてゆく、のではなく、その劇は、子どもたちを見つめる藤田さんの視線の上に、半ば即興的に出来上がっていった。彼らの感情の一つ一つ、動きの一つ一つ、記憶の一つ一つが、藤田さんのからだを通して、見たことのない「何か」に変わってゆく。それは、わたしの知っている小説（や詩）の書き方にはないものだった。あるいは、わたしの知る限り、どんな芸術の分野でも、ほとんど見られないやり方だった。おそらく、それは、藤田さんのお母さんが藤田さんを「作った」やり方なんだろう、とわたしは思った。いや、すべての母親は、そうやって子どもを成長させてゆくのだろうか。

母親は子どもに母乳を与える。ただ、栄養物を与えるのではなく、暖かいからだで抱きしめながら、見つめながら、である。そのとき、子どもは、柔らかく暖かいものにくるまれ、同時に、その奥から、胎児のときにも聞いていた不思議な振動を感じつつ、もともと血液に由来する栄養物を摂取する。その栄養物は、そのからだの一部から噴出している。それは、きわめてエロチックな光景でもあるし、生命そのもののあり方を示しているようにも思える。その、母と子の一体化した空間に、やがて、社会が浸透してゆく。子どもは母親の肉体から切り離され、「家の子」になり「社会の子」になる。学校に行き、「社会のことば」を学ぶようになるのである。比喩的にいうなら、わたしたちは、母親が作る、温かく親密なcocoon（繭）の世界を抜け出して、外の世界に飛び立つ。それが「成長」であると、わたしたちは教わるのである。

だが、cocoonの「外」にほんとうの社会がある、というのはほんとうなのだろうか。cocoonの中は、やがて「外」へ出るための前段階の、未熟な世界なのだろうか。いや、cocoonの中こそ、社会という怪物が作りだす、恐怖と暴力が支配する世界に対抗できる唯一の世界ではないのか。

わたしが、初めて出会った藤田さんの作品「cocoon」は、マンガを原作として、70年前の沖縄を舞台に戦争を描いたものだった。戦争を描いた作品は無数にある。その中で、作り手たちは、戦争が象徴している死に満ちた世界に対抗する世界を、それぞれに作ってきた。藤田さんが、わたしたちに見せたのは、それまで誰も見せたことがないものだったように思う。そこで、死と暴力に直面した女の子たちを支えるのは、母親たちが、子どもたちを作る、いや贈る「繭」そのものの世界だった。

藤田さんの作品は、そのどれもが、愛をこめて作られた、一つ一つ異なった「繭」であるように思える。だからこそ、わたしたちは、彼の作品に触れるとき、理由もわからず、決定的な喪失の痛みを感じるのである。わたしたちは、あそこから来たのだ、と。

高橋源一郎  
Genichiro Takahashi

1951年広島県尾道市生まれ。小説家、明治学院大学国際学部教授。1981年、『さようなら、ギャングたち』でデビュー、「群像」新人長編小説優秀賞受賞。88年、『優雅で感傷的な日本野球』で三島由紀夫賞受賞。2002年、『日本文学盛衰史』で伊藤整文学賞受賞。12年、『さよならクリストファー・ロビン』で谷崎潤一郎賞を受賞。近著に『デビューを書くための超「小説」教室』『動物記』『民主主義ってなんだ？』（SEALDsとの共著）、『日本文学全集07 枕草子・酒井順子訳、徒然草・内田樹訳、方丈記・高橋源一郎訳』（以上河出書房新社）、「丘の上のバカぼくらの民主主義なんてぜ2』（朝日新書）、『読んじやいなよ！ 明治学院大学国際学部高橋源一郎ゼミで岩波新書をよむ』（岩波新書）など。



③

④ ⑤

### マームとジプシー

藤田貴大が全作品の脚本と演出を務める演劇団体として、2007年『スープも枯れた』にて旗揚げ。シーンのリフレインを別の角度から見せる映画的手法を取り入れ注目を浴びる。2011年6月から8月にかけて発表した連作『かえりの合図、まったり食卓、そこ、きっと、しおふる世界。』で第56回岸田國士戯曲賞を受賞。また、2012年5月より「マームと誰かさん」シリーズを企画し、他ジャンルのアーティストとの共作を発表。2013年には初の海外公演を成功させた。同年『cocoon』を発表、2015年には沖縄を含む全6都市にて大規模ツアーを敢行。同年2週間イタリアに滞在し、現地の俳優と日本の俳優を同数起用し新作『IL MIO TEMPO』を発表。日本全国、国内外で精力的に活動している。

- ①⑤「夜、さよなら」「夜が明けないまま、朝」「Kと真夜中のほとりて」 Photo◎細野晋司
- ②④「AAA かえりの合図、まったり食卓、そこ、きっと—————」 Photo◎橋本倫史
- ③⑥「クラゲノココロ」「モノノパノラマ」「ヒダリメノヒダ」 Photo◎三田村亮
- ⑦「あっこのはなし」 Photo◎橋本倫史



⑥ ⑦

発売日 一般 4.22(土) メンバーズ 4.15(土)

### マームとジプシー『10th Anniversary Tour』

- I 「クラゲノココロ」「モノノパノラマ」「ヒダリメノヒダ」
- II 「AAA かえりの合図、まったり食卓、そこ、きっと—————」
- III 「夜、さよなら」「夜が明けないまま、朝」「Kと真夜中のほとりて」
- IV 「あっこのはなし」

### 7.7(金)～30(日) 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

【作・演出】藤田貴大  
【出演】石井亮介、伊野香織、萩原 綾、小椋史子、尾野島慎太郎、川崎ゆり子、斎藤章子、中島広隆、成田亜佑美、波佐谷 聡、長谷川洋子、船津健太、沼田美子、吉田聡子 / 山本達久  
チケット(税込) 全席自由(整理番号付) 一般 4,000円 メンバーズ 3,500円(当日券は各500円増)  
4作品セット券(枚数限定・前売のみ・劇場のみ取扱) 一般 14,000円 メンバーズ13,000円

	7	7	8	9	15	16	17	21	22	23	24	26	27	28	29	30
	金	土	日		上	日	月祝	金	土	日	月	水	木	金	土	日
13:00																III
14:00			I				II									I
15:00															II	
18:00			I			II	II			III	IV					II
19:30			I						III		IV		I			III

# 2016年度 MEET THE DANCE

～アーティストが学校にやってくる!

文●川添史子 Photo●Matron2016



2016年度  
「MEET THE DANCE」  
～アーティストが学校にやってくる!

- 実施校: 三芳町立三芳東中学校
- 対象: 3年生男女74名
- 講師: 岩淵多喜子

発表会に向けてのレッスンも見学した。アシスタントが各グループに一人付き、子どもの自由なアイデアを伸ばしつつ、作品にまとめるべく優しくアドバイス。生徒たちも恥ずかしがることなく、「こんな動きは?」「ここがうまくいかないなあ」と積極的に発言していた。



公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団では、埼玉県内の小・中学校に、芸術を身近に感じてもらうための、さまざまな活動を企画。その取り組みの一つとして、地元の中学校を訪問し、子どもたちにダンス体験の機会を届けるアウトリーチ事業「MEET THE DANCE (ミート・ザ・ダンス) ～アーティストが学校にやってくる!」を実施している。

昨年の11月は、ダンサー・振付家の岩淵多喜子が三芳町立三芳東中学の子どもたちと交流。計8日間、身体を使って表現する楽しさを伝えた。最後のレッスンには発表会も開催され、思いっきり身体を動かして踊る子どもたちのダンス作品が見学できた。

江戸時代に活躍した絵師・葛飾北斎による絵手本(北斎漫画)をもとに、創作ダンスをつくった同校の生徒たち。全74人が6・7人ずつに分かれ、各グループが選んだ絵をもとに動きをつくる。波、餅つき、妖怪、蜘蛛の巣、俵を運ぶ人たち……。北斎が描いた躍動が、柔軟な子どもたちの表現欲を刺激し、オリジナリティー溢れる作品が次々と立ち現れる。思い思いのポーズで、実に嬉しそうに、大きく踊る様子が印象的だった。

オープニングとフィナーレの、全員による群舞は迫力充分。最初から最後まで、男子も女子も一人残らず笑顔で取り組み、踊り終わったあとは湯気が出そうな上気した表情が清々しかった。

授業終了後には子どもたちから、「真剣にできてよかったです」「踊るうちに自信ができてきました」「優しくアドバイスいただき、楽しめました」「今回のようなダンスは初めてで最初は不安でしたが、試すうちにいろいろな振りが思いつき、毎回授業が楽しみでした」と岩淵とアシスタント講師へ御礼の言葉が送られた。ダンスを通して、心の交流も行われたようだ。



ツリーで有名なロックフェラー・センター前のクリスマス・デコレーション

# はなさかじいさん ニューヨークへ行く

彩の国さいたま芸術劇場が2006年より製作を続け、子どもも大人も楽しめる好評の「日本昔ばなしのダンス」シリーズ。

男性だけのダンスカンパニー コンドルズの選抜メンバー4人による『はなさかじいさん』(2008年初演)がジャパン・ソサエティ\*からの招聘を受け、ついにNYに上陸!(2016年12月10日・11日) 全米(?)が笑い、泣いた現地レポートを同行した当劇場スタッフよりお届けしよう。



紙芝居「柿の木じろべえ」Photo©Ayumi Sakamoto



『はなさかじいさん』Photo©Ayumi Sakamoto



NY国連本部近くにある会場となったジャパン・ソサエティ



カーテンコールの様子。現地在住アーティストPINK BUNNYとともに

『はなさかじいさん』は日本では言わずと知れた昔話の定番だが、はるか遠くの米国で上演するにあたり、現地の主催者スタッフと打合せを行いNYバージョンをつくった。例えばダンス作品中の一部セリフを「NY録音」と銘打ち英語で現地録音を敢行し、日本版で小道具として使用していたちょっとセクシーな雑誌は、セレブ系ゴシップ雑誌に変更。また、今話題のトランプ大統領を作品中に取り入れる案も出たが、これには待たがかった。なんでもNYは反トランプ派が多数のため、彼に関するユーモアには誰も一切笑わない、つまり文字通りシャレにならん、とのことであった。このようなやりとりも海外公演の醍醐味と言えよう。

そんな綿密な打合せの末にNY版は完成し、2日間の本番に臨んだ。当日訪れたたくさんの子ども達の声で開演前から会場は熱気に包まれている。

『はなさかじいさん』を始める前に、まずは近藤良平による紙芝居『柿の木じろべえ』で昔ばなしの世界へご案内。1枚めくった冒頭から会場には爆笑の渦が広がり、近藤のちょっと不思議でユーモアたっぷりのワンダーランドにNYっ子たちは一気に引き込まれたようだ。

そしてよいよ『はなさかじいさん』が登場。良いおじいさん(鎌倉道彦)と悪いおじいさん(山本光二郎)、それぞれの妻の良い/悪いおばあさん(藤田善宏の一人二役)の対照的な身体描写にも笑いが起こり続け、一挙手一投足に会場が湧いた。そしてこの上演中、特に印象的だったのはボチ(近藤)が死んでしまった場面だ。それまで笑い転げていた観客が本当にショックを受けていたのだ。子どもは泣き始め、大人ですら「Oh my God……!」と小さくつぶやき言葉を失っている。なんと席を立て悲しい顔をしながら帰ろうとする親子までいる始末だ。終盤、ボチが花となって蘇る場面ようやく会場の空気が緩んだのだが、それほど真剣な眼差しが作品に向けられていた証拠であり、ニューヨーカーたちの情熱に圧倒されてしまうほどであった。終演後は「とてもクリエイティブで面白い、楽しかった」「Love it!」「Great」「5点中10点、素晴らしかった!」などと好意的な感想がたくさん寄せられ、「昔ばなしのダンス」初海外公演は好評のうち幕を下ろした。

\*1907年に設立されたアメリカ合衆国の非営利組織。政治・経済から文化・教育まで様々な切り口から日本文化の発信をおこなっている。

DANCE

# コンドルズ 『17's MAP』

今年もコンドルズの季節がやってくる！  
学ラン姿でダンス、生演奏、人形劇、映像、コントを展開するダンス集団による恒例の埼玉のみの新作公演。  
11作目のタイトルは『17's MAP』。  
今回は、コンドルズの舞台に欠かせないキャッチーな映像を生み出すメンバー オクダサトシが、地図(=MAP)にまつわる〈あれこれ〉を語る。

## 絵と文●オクダサトシ

コンドルズの踊れない方担当、コントの方担当、絵と映像の方担当。ATG unlimited主宰、goen造形部。

## チケット発売中

### コンドルズ埼玉公演2017新作『17's MAP』

5.20(土)開演14:00/19:00 5.21(日)開演15:00  
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[構成・映像・振付] 近藤良平 [出演] コンドルズ  
チケット(税込) 一般 前売S席5,000円 A席3,500円  
U-25\* 前売S席3,000円 A席2,000円  
メンバーズ 前売S席4,500円 A席3,200円

\*当日券は各席種とも+500円 ※A席(サイドバルコニー)は舞台の一部が見えづらい席となります。  
※演出の都合により、開演時間に遅れますとお席へのご案内をお待ちいただく場合がございます。予めご了承ください。  
\*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

## みなさん、こんにちは。 コンドルズのオクダサトシです。



オクダサトシ

東京藝術大学大学院で油画専攻。芸術学修士。99年からコンドルズ参戦。体重120キロの巨漢を活かした、いろんな意味で破壊的なステージングが得意。作品中の映像作品、小道具、美術なども担当。巨体に似合わせた繊細な映像作品が話題。野田秀樹演出『NODA-MAP「バイバー」』、前田哲監督映画『極道めし』などに出演。2017年5月公開山田洋次監督『家族はつらいよ2』に出演。アートユニットATGを主宰。プロレスマニア。

**僕** は20代の頃からひとりでヨーロッパを旅するのが好きでした。3ヶ月フリーのエアチケットとユーレイルパスとトーマスクックとトラベラーズチェックを持って、登山用のでっかいリュックを背負って、2ヶ月くらい旅する。いわゆるバックパッカーですね。夜行で街に着いたらホテルに荷物を置いて歩き出す。「Do you have a room tonight?」なんて簡単な英語でホテルの予約ができるとわかったときは嬉しかったものです。ウィーンの公園で野宿した朝、中年の男4人に囲まれていたこともあり。幸い何もなかったのですが、後でアキ・カウリスマキの『過去のない男』を見たら、まったく同じ場面があって主人公がボコボコにされていて冷や汗が流れました。

## 事

前に計画を立てて旅をするか、当てずっぽうに旅するか。僕はどちらかと言えば後者で、思いついたり現地の人の話を聞いて移動する適当な旅が好きです。以前「ヨーロッパを旅するのでオススメを教えてください」という若者に、お気に入りの街やルートを教えてあげたら、あっという間にネット検索して、ホテルまで予約して出発しました。「おいおいそういうのじゃなくてさ」と言いましたが、野暮なのでやめました。

## 街

に着いたら必ず「地図」をインフォメーションでもらいます。地図がないとさすがに不安ですもんね。コンドルズの『17's MAP』はどこに行くのでしょうか。メンバーがそれぞれ持っている地図を稽古場に持ち寄って、旅がスタートすることになりそうです。良い旅になるのか悪い旅になるのか、5月の新作『17's MAP』ご期待ください。

**コ** ンドルズでは、すべての映像を作ってます。アニメーションやタイトル、ウソのCMとか影絵とか。モンティ・パイソンのテリー・ギリアムみたいな気分で作ってます。今回の映像も楽しんでくださると幸いです。

## コンドルズとは



男性のみで結成されたダンスカンパニー。舞台衣装は学ラン。ダンス、生演奏、人形劇、映像、コントを大胆に展開するジャンル横断的な手法で、独自の世界観に溢れる舞台を創り出す。国内はもとより、これまでに世界約30ヶ国で公演。ダンスだけでなく演劇、TV、ラジオ、映画への出演・振付も多数。日本の舞台芸術界で異彩を放つ注目のダンス・グループ。2016年に結成20周年を迎え、NHKホールで2日間の単独公演を行った。

2014年公演『ひまわり』より Photo©HARU

《マタイ受難曲》で始まる2017年度  
シリーズ公演は聴き逃さない顔ぶれ

3年ぶりの再演となるバッハ・コレギウム・ジャパンの《マタイ受難曲》で、2017/18シーズンのオープニングを飾るとは、なんとという冒険的なことだろう。しかし、604席という極めて親密な空間でこの大作に接することができるのは、かけがえのない体験だ(と、3年前の公演を聴いた筆者は確信する)。目の前で繰り広げられるイエスたちの物語、そしてJ.S.バッハが巧妙に仕掛けた音楽の綾をつぶさに聴くことができるのは、まさにこのホールならでは。《マタイ》の実演はまだ、という方にこそ声を大にしてお薦めしたい公演である。

2007年にスタートし、音楽ホールならではの注目企画といえる「ピアノ・エトワール・シリーズ」も、11年目に突入。次世代

のホープを次々に送り出してきたが、今シーズンも2人の若手ピアニストが登場する。11月11日(第32回)には、2015年の「ショパン国際ピアノ・コンクール」において第3位およびマズルカ賞を獲得し、審査員の一人からは「100%のショピニスト(ショパン弾き)」と称賛されたケイト・リウが登場。ショパン作品等のプログラムにご期待いただきたい。

2018年1月27日(第33回)に登場するのは、イギリスのBBCが新世代の注目アーティストとして紹介するなど、ロシアの新星として評価を高めているパヴェル・コレスニコフ。シューマン、シューベルト、ショパンというプログラムは、このピアニストを真正面から知るために最適のラインナップだろう。この二人に加え、ますます自信に満ちた音楽を奏でる上原彩子が、6月10日に「アンコール公演」で登場するのも聴

き逃さない。  
すでに安定した人気と評価を得ているアーティストが、こだわりの選曲で登場する「次代へ伝えたい名曲」も、「ピアノ・エトワール・シリーズ」と並ぶ人気企画だ。

10回目となる5月13日には、2007年からの10年間で名作チェロ・ソナタを次々と演奏し続けてきた山崎伸子が登場。ベートーヴェンのソナタ第3番ほか、あらためて名曲をじっくりと聴く回になりそうだ。9月16日に登場する吉野直子のリサイタルは、多くの方がハーブの名曲に出会い、開眼する回になるかもしれない。未知の作曲家や曲であっても、吉野の演奏がじっくりと魅力を伝えてくれるだろう。12月17日は、聴いているだけで幸福な気分になるほど美しい音色を奏でる工藤重典が、数多いフルートの名曲から選りすぐりのプログラムを組んでくれる。このシリーズ、今

シーズンからはコンサート後のトークや予習も兼ねたワークショップなども用意されているので、ぜひご注目・ご参加を。

世界的な名演奏家を聴く至福

シリーズ以外にも、充実した音楽を聴かせてくれるアーティストたちが登場。9月30日のアンサンブル・ウィーン=ベルリンは、人気クラリネット奏者のA.オッテンザマーをはじめ、名手ぞろいのスーパー・グループ。意欲的なプログラムで客席を沸かせてくれるだろう。11月19日は、玄人好みの充実した音楽を聴かせてくれるヴァイオリニスト、レオニダス・カヴァコスが登場。彼ならではの誠実さと探求心により生まれる、ベートーヴェン等の名作をじっくりと味わえるはずだ。コンサート後の計り知れない充実感を味わいたい方は、2018年3月21日に登場するマレイ・ペライアもお

聴き逃しなく。今年で70歳を迎える巨匠の音楽を、このホールで繊細な音も漏らさず聴けるのは、至福以外の何ものでもない。

もうひとつ注目したいのは、「みんなのオルガン講座」や「光の庭プロムナード・コンサート」\*の監修等でおなじみの大塚直哉が、ポジティブ・オルガンについて語り、演奏するレクチャー・コンサートだ。楽器について、古楽について興味津々の方は、ぜひ好奇心をフル稼働させて8月27日に音楽ホールへ。

オーケストラ公演は埼玉会館で!

この他、1年半の改修工事を経て4月1日

にリニューアル・オープンする、埼玉会館のコンサートもご紹介しよう。華々しい再オープン当日(4月1日)は、人気ヴァイオリニストの大谷康子を中心としたアンサンブルの演奏を。7月29日は夏休みの時期に家族みんなで楽しめる「夏休みオーケストラランド!」を(指揮者体験など、楽しい企画ぞろい!)。10月7日はNHK交響楽団(リオ・クオクマン指揮)が登場し、ジャズ・ピアニストの小曾根真がプロコフィエフのピアノ協奏曲第3番を弾くのに注目だ。1,000円というリーズナブル価格で、気軽に一流の演奏が聴ける「ランチタイム・コンサート」の情報もお見逃しなく。

彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール & 埼玉会館

2017年度 音楽公演 注目のラインナップ紹介

2017年度の音楽公演は、埼玉会館がリニューアル・オープンし、さらに充実。若手からベテランまで、注目のアーティストが登場する2017年度音楽公演ラインナップの聴きどころを紹介!

文◎オヤマダアツシ (音楽ライター)



バッハ・コレギウム・ジャパン  
指揮 鈴木雅明  
Photo◎Marco Borggreve



山崎伸子 Photo◎Akira Muto



上原彩子



大塚直哉 Photo◎R. Hotta



吉野直子 Photo◎Akira Muto



パヴェル・コレスニコフ  
Photo◎Colin Way



マレイ・ペライア  
Photo◎Felix Broede



埼玉会館ファミリー・クラシック  
夏休みオーケストラランド!  
Photo◎加藤英弘



大谷康子 Photo◎尾形正茂



工藤重典 Photo◎土居政則



アンサンブル・ウィーン=ベルリン  
Photo◎Karlinsky



ケイト・リウ



レオニダス・カヴァコス



リオ・クオクマン



小曾根 真 Photo◎大杉幸平

SCHEDULE

彩の国さいたま芸術劇場

4月15日(土) 16:00  
バッハ・コレギウム・ジャパン  
J. S. バッハ《マタイ受難曲》

5月13日(土) 14:00  
「次代へ伝えたい名曲」第10回  
山崎伸子チェロ・リサイタル

6月10日(土) 15:00  
ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.7  
上原彩子ピアノ・リサイタル

8月27日(日) 14:00  
大塚直哉レクチャー・コンサート  
ポジティブ・オルガン in アンサンブル

9月16日(土) 14:00  
「次代へ伝えたい名曲」第11回  
吉野直子ハーブ・リサイタル

9月30日(土) 15:00  
アンサンブル・ウィーン=ベルリン

11月11日(土) 15:00  
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.32  
ケイト・リウ ピアノ・リサイタル

11月19日(日) 15:00  
レオニダス・カヴァコス  
ヴァイオリン・リサイタル

12月17日(日) 15:00  
「次代へ伝えたい名曲」第12回  
工藤重典フルート・リサイタル

2018. 1月27日(土) 15:00  
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.33  
パヴェル・コレスニコフ  
ピアノ・リサイタル

2018. 3月21日(水・祝) 15:00  
マレイ・ペライア ピアノ・リサイタル

【光の庭プロムナード・コンサート】\*

構成: 大塚直哉  
会場: 彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ(1階)  
ポジティブ・オルガン(移動可能な小型のパイプオルガン)と器楽・声楽とのアンサンブルでお届けするミニ・コンサートです。4~5月の公演はP.20 イベントカレンダーをご覧ください。  
※入場無料

埼玉会館

4月1日(土) 14:00  
埼玉会館リニューアル・オープン記念事業  
大谷康子&東京交響楽団室内合奏団  
アフタヌーン・コンサート

7月29日(土) 14:00(休憩あり 16:00終演予定)  
埼玉会館リニューアル・オープン記念事業  
埼玉会館ファミリー・クラシック  
夏休みオーケストラランド!  
飯森範親(指揮) 朝岡 聡(司会)  
東京交響楽団

10月7日(土) 16:00  
埼玉会館リニューアル・オープン記念事業  
NHK交響楽団  
リオ・クオクマン(指揮) 小曾根 真(ピアノ)

【埼玉会館ランチタイム・コンサート】  
各回12:10~13:00 全席指定1,000円

第31回 6月20日(火)  
NHK交響楽団メンバーによる  
木管三重奏「トリオ・サンクファンジュ」

第32回 9月22日(金)  
ウェールズ弦楽四重奏団

第33回 2018. 1月11日(木)  
ニューイヤー・スペシャル 日本音楽集団

第34回 2018. 3月6日(火)  
金管五重奏団 Buzz Five

\*2017.3.現在。やむを得ぬ事情により、出演者等が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください

年齢を重ねれば重ねるほど  
音楽をする喜びが強くなる

彩の国さいたま芸術劇場での2回目のリサイタルとなるチェリスト山崎伸子。2007年から始めたチェロ・ソナタ・シリーズをこの春に最終回を迎え、毎回リリースしているライブ録音CDも完結させる予定であるなどソコでの実績に加え、室内楽では数々の演奏家たちから信頼を寄せられて共演を重ねている。

「次代へ伝えたい名曲」というシリーズのプログラムを考えるにあたっては、恩師である齋藤秀雄と留学時に教えを受けたピエール・フルニエから伝えられたさまざまなことに思いを馳せて、曲目を選んだという。

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画  
「次代へ伝えたい名曲」第10回  
Interview

## 山崎伸子

### 芸術は、一生かけてもできないものだから素晴らしい

日本のトップ・アーティストたちが「次の世代へ受け継ぎたい名曲」を選曲してお贈りするシリーズ「次代へ伝えたい名曲」。第10回は、ソリストとして室内楽奏者として、ますます精力的な活動を展開するチェロ奏者、山崎伸子。彼女は名演奏家であることはもちろん、名教師でもあり、現在活躍する日本の若いチェロ奏者の多くは彼女の弟子だ。そんな山崎が「次代」のために選んだプログラムへの思いを語る。

取材・文 ● 楠瀬寿賀子 (音楽ライター) Photo ● 堀田力丸

1曲めには、ベートーヴェンのソナタ第3番というチェロ・ソナタの名曲中の名曲を置いた。

「交響曲の第5番や第6番などが書かれた、中期のベートーヴェンの才能が溢れている時代の作品。あまりに有名すぎて、聴く側の期待も大きいですね。私も聴く側としては大好きな曲ですが、いままで名演奏もたくさん残っていますので、弾く側としてはハードルが高い。構成力の充実もさることながら、若いゆえのエネルギーなどを感じてほしいですね。とはいえ、自分が若いときにはなかなかそれがわからない。若いゆえのすばらしさや生きる喜びというのは、年齢をとって初めて実感できるんです。

音楽はどの曲もそうですが、若い頃ほど身体が自由に動かない分いろいろな発見もあって、いろいろ考えたり、いままでのことを思い返したり、若い頃に習ったことも鮮明に思い出したり。年齢を重ねれば重ねるほど音楽をする喜びが強くなる、ということを感じています」

演奏のもつ空気感は  
生演奏でしかわからない

マルティヌーのソナタ第1番はフルニエに捧げられた作品だ。師の演奏を直接聴くことはなかったが、のちに、フルニエが70代のころに日本で録音したCDを聴き、その瑞々しい演奏に驚いたという。

「2時間のプライベートレッスンで1曲を聴いていただくのですが、よかったのは目の前で弾いてくださることでした。まさに演奏家。具体的にどこをどうしろ、というのはありませんでしたが、じかに音を聴くことばかりでなく、じかに見る、ということがたいへん勉強になりました」

話は自身の指導に及ぶが、舌鋒鋭い言葉の中にも彼らを育てる思いにあふれた温かい眼差しがある。若い演奏家のコンサートで客席で山崎の姿を見かけることも多い。

「長年教えている中でテクニックも全員に同じように教えますが、どこまで興味を持って自分のものにできるか、ということにはやはり個人個人で異なりますね。自分から貪欲に学んでいく子、人が弾いているときにも食い入るように見て、ちゃんと質問ができる子が伸びていく。基礎のテクニックは先生から教わるものだと思いますが、あとはいかに盗めるか、その知恵をもっていかどうかということ。盗めないものは身につかないんです。

いまはいろいろな演奏家のCDがすぐ手に入るのも、もちろんそこから吸収できることも多いですが、やはり生の演奏を聴く、というのはとても大事なことです。演奏のもつ空気感というのは行かないとわからない。すばらしい演奏家のコンサートは会場ごとその人の音楽になって、みんなその音楽を共有することができます」

チェリストはもちろん  
ピアニストのためにもなるプログラム

コンサート後半は、武満徹の《オリオン》に続いて、ピアニストにも注目が集まるショパンのソナタで締めくくる。

チケット発売中

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画「次代へ伝えたい名曲」第10回  
山崎伸子 チェロ・リサイタル

5.13(土)開演14:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[出演] 山崎伸子(チェロ)、加藤洋之(ピアノ)

[曲目] ベートーヴェン: チェロ・ソナタ第3番 イ長調 作品69 マルティヌー: チェロ・ソナタ第1番 H.277  
武満 徹: オリオン ショパン: チェロ・ソナタ短調 作品65

チケット(税込) 一般 正面席4,000円 バルコニー席3,000円  
U-25\*(バルコニー席対象)1,500円/メンバーズ 正面席3,600円

※終演後、アフターコンサートトーク開催!

\*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。



山崎伸子 チェロ  
Nobuko Yamazaki

桐朋学園大学卒業。国内の主要オーケストラや、イギリス室内管等と共演。07年より10年にわたり津田ホール他でチェロ・ソナタ・シリーズを開催。4枚目のCDが第49回レコード・アカデミー賞(室内楽部門)を受賞(共演:野平一郎)。桐朋学園大学特任教授、東京藝術大学名誉教授。

加藤洋之 ピアノ  
Hiroshi Kato

東京藝術大学附属音楽高校を経て同大学卒業。大学院在学中の1990年にジュネーヴ国際音楽コンクール第3位入賞。2002年のウィグモア・ホール(ロンドン)でのコンサートは「The Times」紙上で絶賛された。国内外でソリスト、室内楽奏者として活発な演奏活動を続けている。

KABUKI



継がれゆく成駒屋の大名跡

撮影：荒木大甫

# 松竹大歌舞伎

中村橋之助改め 八代目中村芝翫 襲名披露

中村国生改め 四代目中村橋之助 襲名披露

中村宗生改め 三代目中村福之助 襲名披露

文●川添史子

恒例の「松竹大歌舞伎」。今年は、昨秋大きな話題となった父子襲名披露興行が登場。昨秋誕生したばかりの、八代目中村芝翫、四代目中村橋之助、三代目中村福之助が熊谷にやってくる。

八代目芝翫は、折目正しい芸を見せた七代目芝翫の次男として初舞台を踏んで以来、数々の舞台で活躍。さっぱりと涼やかで端正な二枚目立役だ。NHK大河ドラマや蜷川幸雄演出『たいこどんどん』をはじめ、幅広い活動を見せている。

長男、四代目中村橋之助は21歳、三代目中村福之助は19歳。二人とも大人の俳優へ変化を遂げている最中で、舞台姿は清々しい。将来が楽しみな若手花形だ。

女方で知られた先代の芸を受け継ぎつつ、四世以来となる立役の芝翫。四代目は幕末から明治に活躍し、〈大芝翫〉と呼ばれた名優だ。実際の舞台に接した岡本綺堂は「古風の歌舞伎劇を演ずるに適すること彼のごとき、顔と芸との持ち主を知らない」と述懐しており、その立派な舞台姿が目立つ。『熊谷陣屋』の熊谷直実は生涯の当たり役として繰り返し上演され、やがて〈芝翫型〉と呼ばれるまでに。今回の公演では、その〈芝翫型〉が見られる貴重な機会！

『熊谷陣屋』は「平家物語」を題材にし、忠義のためにわが子を犠牲にした武士の物語。世の無常、人生の儚さが胸をうつ、重厚な義太夫狂言の名作だ。現在定型となっているのは〈團十郎型〉で、熊谷個人の心情にスポットを当てたもの。今回見られる〈芝翫型〉は、人形浄瑠璃の演出を踏襲した古風な味わいが、なんとも豪快で楽しい。昨年、歌舞伎座での襲名披露興行でも上演され、評判となった。また、主人公の熊谷直実は武蔵国熊谷郷（現・熊谷市）出身。松竹大歌舞伎の『熊谷陣屋』がご当地へ来るのは昭和63年の巡業以来、実に29年ぶりだ。

酒好きで無邪気な中国の伝説の霊獣、猩々を巧みに表現した華やかな舞踊『猩々』、幹部俳優が勢揃いする『襲名口上』もお楽しみに。



中村梅玉 中村福之助 中村橋之助 中村芝翫

発売日 一般 6.3(土) メンバーズ 5.27(土)

## 平成29年度公文協東コース 松竹大歌舞伎

中村橋之助改め 八代目中村芝翫 襲名披露  
中村国生改め 四代目中村橋之助 襲名披露  
中村宗生改め 三代目中村福之助 襲名披露

7.28(金) 昼の部12:30/夜の部17:00  
熊谷文化創造館さくらめいと 太陽のホール

【演目】『猩々』、『襲名披露口上』、『一谷嫩軍記 熊谷陣屋』  
【出演】中村橋之助改め中村芝翫、中村国生改め中村橋之助、中村宗生改め中村福之助、中村梅玉 ほか

チケット(税込) 一般 S席6,500円 A席4,000円 B席2,000円  
U-25\*(A席対象)1,000円/メンバーズ S席6,000円 A席3,600円  
※イヤホンガイド(有料)あり。  
\*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

熊谷文化創造館さくらめいと  
〒360-0846 埼玉県熊谷市拾六間111-1  
【電車】JR高崎線「籠原」駅  
タクシー：籠原駅南口より約5分 徒歩：籠原駅南口より約15分  
※当日は籠原駅南口・さくらめいと間の臨時無料バス「さくらめいと号」を運行いたします。  
【車】  
国道17号「自衛隊入口」交差点より2km  
国道140号バイパス「武休西」交差点より2km  
※無料駐車場400台

# Review

レビュー

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.31  
キット・アームストロング ピアノ・リサイタル  
1.21(土) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール



Photo◎加藤英弘

ルネッサンスおよびバッハ親子の作品の間に日本初演となる自作2曲を挟んだプログラム。多様様式の代表的作曲家C. P. E. バッハの、様々な表情を見せる《自由な幻想曲》で演奏会は始まった。総じてアームストロングの鋭敏な耳と、明晰な作品把握を感じさせる演奏。大バッハ《パルティータ第6番》では、即興性あふれる冒頭と中間部の緻密なフーガとの対比が鮮やかな〈トッカータ〉から聴衆を惹きつけ、最後の〈ジグ〉が輝かしく閉じられると温かな拍手が沸き起こった。アンコールは、スウェーリンクと同世代のジョン・ブルのヴァージナル作品と、リスト《超絶技巧練習曲》。

PLAY

さいたまゴールド・シアター 『Pro・cess2017』  
1.26(木)~29(日)  
彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO(大稽古場)



Photo◎宮川舞子

2006年の夏、さいたまゴールド・シアターが発足からわずか3カ月で上演した小さな公演『Pro・cess〜途上〜』。前半は清水邦夫「明日そこに花を挿そうよ」、続いて後半は『三人姉妹』第一幕を上演すべく準備が進んでいたが、初日前日の最終リハーサルで蜷川幸雄が「やめましょう。人に見える作品になっていない」と一喝し『三人姉妹』部分は中止に。それがこのたび、10年の時を経てついに完全なる形で上演された。演出は前回同様、演出助手として蜷川を支えていた井上尊晶が務め、ゴールドメンバーと一丸となって〈再び〉に挑んだ。彼らの力強い再出発を祝いたい。

RAKUGO

彩の国さいたま寄席 四季彩亭  
～彩の国落語大賞受賞者の会 春風亭一之輔  
1.21(土) 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール



Photo◎青木信二

観客の投票により、年間で最も優れた若手落語家に贈られる「彩の国落語大賞」。平成27年度受賞者は春風亭一之輔に決定し、記念の落語会が開かれた。親より一枚上手のこまっしゃくれた子どもが可愛らしい『雛罎』、しっかりした語り口で、兄と弟、二つの人生の明暗を的確な人物描写で紡いだ『鼠穴』の二席を披露。人気と実力を誇る気鋭の若手、面目躍如といったところ。今年米寿、ゲストの三遊亭金馬は出世力士の人情噺「阿武松」で、めでたい席に花を添えた。若手・春風亭正太郎は、ケンカばかりの夫婦が繰り広げる滑稽話「堪忍袋」、前座・春風亭一狼は「松竹梅」。

MUSIC

佐藤俊介の現在 Vol.3  
20世紀初頭、花ひらく三重奏  
2.11(土・祝) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール



Photo◎加藤英弘

ヴァイオリニスト佐藤俊介の3年にわたるシリーズの最終回は、1910～30年代の三重奏を当時の楽器で演奏するというもの。音域ごとに音色が異なる1887年製スタインウェイ・ピアノの個性を生かした小管優の演奏に敏感に反応し、佐藤とロレンツォ・コッポラ(ヒストリカル・クラリネット)が多彩な響きを作っていく。楽章ごとに新鮮な表情を見せたミヨーやラヴェル、物語が見えるようなベルク、クラリネットが驚きの音色を聴かせたハチャトゥリャンのあと、組曲《兵士の物語》はまるで音が踊るよう。ダンスから始まったシリーズのまさに集大成となる鮮やかな演奏だった。







画 ● 磯 良一

## こんなところにホクロ発見！

文 ● 岩松 了

電車のつり革につかまったら、そのつり革がいきなりハズレてものすごくびっくりしたという話をしてくれた人がいた。その人はホントにもものすごくびっくりしたらしいのだが、聞いているわれわれはその本人のびっくりに見合うだけの反応を示してあげることが出来なかった。へえ、と言ってむしろへらへら笑うくらいだった。でもよく考えれば、電車のつり革につかまっていきなりそれがハズレたらかなりびっくりするだろうな、ということはわかる。この実感の共有出来なさ、は何だろう？

そのびっくり、とりあえず今のオレには関係ない、ってこと？

昨年12月、公演していた芝居の終演後にその日楽屋を訪ねてくれた観客の数人と飲みに行った。まあよくあることだが、その時ボクの対角線の席に知らないお客さんがいた。誰も紹介してくれないから知らないまま飲んでしゃべっていたのだが、どういう流れが高校演劇の話になった。私はもう20年以上も前のことになるだろう、一度だけ高校演劇の審査員をやったことがあって、群馬県大会だったけれど、その最優秀作品が『はしご』という作品でとても面白かった、という話をした。とりわけ私が気に入ったのは、女子高生2人が何か懸命に話している最中にいきなり片方が「こんなところにホクロ発見！」と言って相手の頬を指さすのだ。演者の明るい声と共に今でも記憶に残ってる。と言った時、対角線の席にいた誰も紹介してくれなかった女の人が「その大会、私も出ました」と言うではないか！ えー！ なんて！ 何それ！

その時私高校3年でした。その大会出ました。『はしご』に負けました。岩松さんが講評で、そのセリフ褒めたのも知ってます。ちょちょちょ、待ってよ。もう20年も前だよ？ 私もう40ですから。いたの!? あの場に？ はい『はしご』に負けました。え、『はしご』高崎女子校だね。いえ前橋女子校です。『はしご』書いた子、知り合いです。え、今その子は？ 演劇続けてる？ いえ、続けてないです。あそ。えー、続けてない！

私は大きくなってしまった自分の声に気付いたわけだが、まわりで「へえ、そりゃすごい偶然だね」と言ってくれてる連れの人たちの視線に思わず「ん？ オレ今、ハズレたつり革つかんでる？」と自問したのだった。

いわまつ・りょう

劇作家、演出家、俳優、映画監督と幅広く活躍。さいたまゴールド・シアター「船上のピクニック」  
「ルート99」の劇作を手掛けた。5・6月に作・演出を手掛ける『少女ミウ』上演予定。